

4 成分ごとの表示方法の例

表示対象物質である原料A、Bと表示対象でない原料Cを混合して、製品Dを製造する場合の製品Dの成分ごとの表示方法の例を示します。

<名称> 製品名等を記載してください。

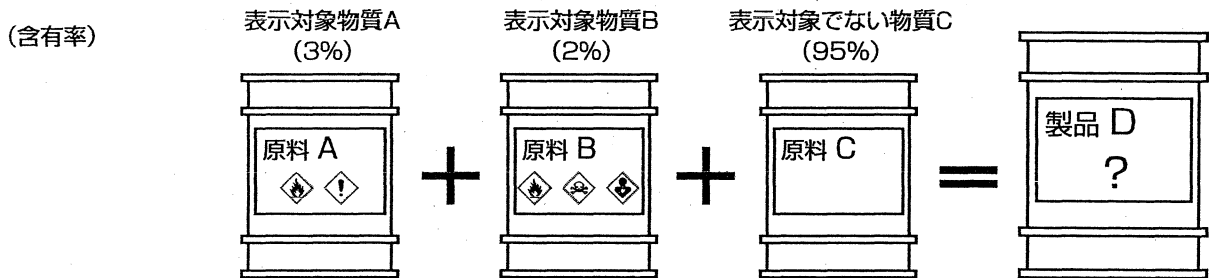
<成分> 含有する表示対象物質の名称を記載してください。なお、表示対象物質以外の成分についても、できる限り記載してください。

<注意喚起語>、<人体に及ぼす作用>、<安定性及び反応性>

原則として、以下の①のように、製品DについてGHSに従った分類をして表示を行うこととなりますが、製品DについてGHSに従った分類を行うことができない場合は、②のように、含有する表示対象物質の純物質としての情報を、各物質ごとに記載してください。

<貯蔵又は取扱い上の注意>

化学物質へのばく露又はその不適切な貯蔵若しくは取扱いから生じる被害を防止するために取るべき措置を記述した文言を記載してください。



| 危険有害性の 分類・区分 | (含有率) | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|---------------------|-----|
| | 表示対象物質A (3%) | 表示対象物質B (2%) | 表示対象でない物質C (95%) | 製品D |
| 引火性液体 | 3 | 1 | — | — |
| 急性毒性 | 4 | 1 | — | 1 |
| 皮膚感作性 | — | — | 1 | 1 |
| 発がん性 | — | 1 | — | 1 |

①製品Dの分類で表示する場合

製品D (成分: A、B、C)

危険

危険有害性情報

1. 飲み込むと生命に危険 (経口)
2. アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
3. 発がんのおそれ

注意書き

1. xxxxxxxxxxxx
2. xxxxxxxxxxxx
3. xxxxxxxxxxxx
4. xxxxxxxxxxxx
5. xxxxxxxxxxxx
6. xxxxxxxxxxxx
7. xxxxxxxxxxxx
8. xxxxxxxxxxxx

氏名 (法人名)、住所および電話番号

②成分ごとに表示する場合

製品D (成分: A、B、C)

A 警告

危険有害性情報

1. 引火性液体
2. 飲み込むと有害 (経口)

B 危険

危険有害性情報

1. 極めて引火性の高い液体
2. 飲み込むと生命に危険 (経口)
3. 発がんのおそれ

注意書き

1. xxxxxxxxxxxx
2. xxxxxxxxxxxx
3. xxxxxxxxxxxx
4. xxxxxxxxxxxx
5. xxxxxxxxxxxx
6. xxxxxxxxxxxx
7. xxxxxxxxxxxx
8. xxxxxxxxxxxx

氏名 (法人名)、住所および電話番号

5 MSDS記載事項について

MSDSに記載する事項は、以下のとおりです。

なおJISZ7250:2005に準拠した記載を行えば、これらの事項を満たすことになります。

(1) 名称

化学物質等又は製品の名称を記載してください。

(2) 成分及びその含有量

各成分のうち文書交付対象物質に該当するものを記載してください。

なお、文書交付対象物質以外の成分及びその含有量についてもできる限り記載してください。

(3) 物理的及び化学的性質

各事業者が使用してきたMSDS等の情報を参考にして、化学物質等の外観、pH、融点、凝固点、沸点、初留点、引火点等の情報を記載してください。

なお、安全衛生情報センター(運営:中央労働災害防止協会)のホームページ(<http://www.jaish.gr.jp/>)に公表されているMSDS記載例(モデルMSDS)も参考にできます。

(4) 人体に及ぼす作用

急性毒性、皮膚腐食性・刺激性等の有害性に関する情報を記載してください。

なお、混合物において、混合物全体として有害性の試験がなされていない場合には、含有する文書交付対象物質の情報を、各物質ごとに記載してください。

(5) 貯蔵又は取扱い上の注意

適切な保管条件、取扱い上の注意等の情報を記載してください。

なお、モデルMSDS等の情報を参考にできます。

(6) 流出その他の事故が発生した場合において講ずべき応急の措置

緊急時の応急措置、火災時の措置、漏出時の措置を記載してください。

なお、モデルMSDS等の情報を参考にできます。

(7) 通知を行う者の氏名、住所及び電話番号

化学物質等を譲渡し又は提供する者の氏名(法人の場合は法人名)、住所及び電話番号を記載してください。

(8) 危険性又は有害性の要約

GHSに基づく分類がなされた場合は、「危険性又は有害性の要約」については、化学物質等の有する危険性又は有害性の分類及びラベル要素(「注意喚起語」、「人体に及ぼす作用」、「安定性及び反応性」及び「貯蔵又は取扱い上の注意」)を記載してください。

(9) 安定性及び反応性

化学物質等の危険性に関する情報(避けるべき条件、混触危険物質、予想される危険有害な分解生成物)を記載してください。

なお、モデルMSDS等の情報を参考にできます。

(10) 適用される法令

化学物質等に適用される法令の名称及び当該法令に基づく規制に関する情報を記載してください。

(11) その他参考となる事項

その他、当該物を取り扱う上で重要な記載事項を記載してください。